



季節を知ったら
暮らしが楽しくなった

〔第三四九号〕

夏至^{げし}

六月二十一日

丹生暦

私たちの暮らしに欠かせない暦。江戸時代初め、1658年の「丹生暦」を見せてもらいました。多気町丹生^{にゅう}で作られていたため「丹生暦」の名があります。

古くから水銀を産出していた丹生では、室町末期に賀茂杵太夫^{かもさんたゆう}という暦師^{れきし}(司)によって、すでに暦が作られていました。当初は伊勢の御師^{おんし}も、丹生暦をお札とともに土産として全国に配っていましたが、江戸時代初めに「丹生暦」を模した「伊勢暦」が伊勢で作られるようになり、こちらが普及していきました。いわば伊勢暦のルーツといえる暦なのです。丹生暦は丹生が紀州藩領であることから、藩内に限り配られ、「紀州暦」とも呼ばれるように。地域限定版のせいも、現在、丹生暦を見ることは難しいのですが、多気町のお寺の襖の下張りから見つかったものを町資料館で拝見したのです。現存する二番目に古い丹生暦になります。

暦は丹生の賀茂杵太夫の名前が刻まれ、明暦4年、382日とあります。この年は閏年^{うるうとし}で12月に閏月^{うるうつき}が入るため、一年が長かったようです。1月から12月まで、毎日日付け、干支、吉凶がていねいに記されています。「百事をやっても良い日」から、「麦を蒔く日」「大食、大酒してはいけない」「爪を切るのに良い日」まで、じつにさまざま。今の暦とは大きく異なりますが、それだけ暦が日々の行動の根本になっていることがわかります。この暦には旧暦のため、五月に二十四節気の「夏至」が書かれています。

丹生暦には、日々書かれたもののほかに、簡略化した「略暦^{りやくれき}」があります。こちらは家の柱や壁などに貼ったため、「柱暦^{はしらじゆれき}」と呼ばれます。丹生暦を見ていると、江戸時代の暮らしがぐっと身近に感じられました。

文 千種清美



おかげの里便り

おかげ横丁

○『おかげ横丁七夕の節句』

七夕の行事は二千年以上も昔に中国で生まれ、日本には奈良時代に伝わったとされています。それが江戸時代になると、短冊に願いごとを書き、笹を飾るようになりました。この風習は、今も全国各地に残っています。古き良き七夕を大切に、皆さまも星に願いごとをしてみてください。

日 時／7月1日(木)～7月7日(水) 10:00～17:00 (催しによって異なる)

場 所／おかげ横丁一帯

※社会情勢やその他の事情により、やむを得ず内容の一部または全体を変更させていただきます。

●七夕飾り

昔ながらの七夕飾りを店先に飾り、町全体で七夕の節句をお祝いします。笹竹の傍に短冊を用意していますので、願い事を書いて笹竹の枝に飾ることもできます。七夕飾りは七種類あり、裁縫の上達や無病息災、延命長寿など、それぞれ意味が込められています。

場 所／おかげ横丁各所

●七夕の市

七夕の風習に触れ、その風情をお楽しみいただける夏の風物を揃えます。また、素麺の原型といわれ、厄除けとして古来宮中で七夕に食されていた「素餅(さくべい)」など、七夕にちなんだ食べ物も販売いたします。

場 所／赤福別店舗側「特設屋台」

●体験教室「松阪もめん機織り体験」

七夕伝説の織姫と彦星。織姫は機織りの名手といわれています。昔ながらの機織り機で足をばたばた踏みかえて機織りに挑戦し、コースターを作ってみませんか。

時 間／7月3日(土)、4日(日) 10:00～17:00(受付16:30)

料 金／600円

場 所／おかげ横丁「特設会場」

お問い合わせ／おかげ横丁総合案内「おみやげや」電話0596-23-8838

五十鈴塾

○『御師の暮らし ～年中行事から見る御師の暮らし～』

江戸時代は、月ごとに多くの年中行事がありました。伊勢には、御師の家や町の行事が書き留められた史料が現存しています。人々の暮らしを彩った月々の行事を紹介しながら、特色ある御師の日常を紐解いていきます。

と き／6月25日(金) 13:30～15:00

講 師／太田 未帆

参加費／一般1,350円 会員850円

場 所／五十鈴塾右王舎

講座についてのお問い合わせ・お申込み／電話0596-20-8251

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止となる可能性があります。

五十鈴茶屋

○『節気菓子』

あじさい
紫陽花

梅雨空の下、色とりどりに咲く紫陽花は、もっとも古い種族は青色であったようです。また、紫陽花の名も藍色が多く集まる様子を指す「あづきあい(集真藍)」なる古語に由来するそうです。羊羹のきんとんで、紫陽花の七変化を表現しました。

こくとうかん
黒糖羹

サトウキビの搾汁を、そのまま煮詰めて作られる黒砂糖は、太陽と大地に育まれた自然の恵みです。黒糖の羊羹と錦玉を、琥珀のような色合いに仕上げました。こくのある甘みで、ひと時の夏時間をお過ごしくださいませ。

さと ほたる
里の螢

宮川の支流・横輪川は、伊勢では螢の名所として知られています。六月の中旬から七月の中旬にかけ、源氏螢や平家螢が群れをなして集まり、美しい光の舞を見せてくれます。白箔とこし餡を、金柑の入った葛寒天で包み、金色の螢火が描き出す情景を表現しました。